

SHIN CLUB 108

(株)ユニホー辰カンパニー 東京都渋谷区渋谷3-8-10 JS渋谷ビル5F tel/03-3486-1570 fax/03-3486-1450



「双日システムズ株式会社本社オフィス・リノベーション ウェイティング・スペース」 撮影:真島香

今月のトーク/monthly talk

企業の顔をつくる

今月は、オフィス・リノベーションのご紹介です。

企業は今、世界的な不況に直面して、どこもコスト・カットの嵐が吹き荒れています。タクシーの利用を控え、ファックスやコピー、プリンターの利用枚数を抑え、必要以外の時間帯の照明を消す。人的には大幅なリストラを余儀なくされている会社も少なくありません。

さらにオフィスのスペースを再構成し、事務所賃料を見直すということも行われています。大きな会社になるほど、適正な人員配置と事務所の再検討が必要になってきます。散らばっていた拠点を集約、都心など賃料の高い地点から離れた地域への移動、複数の異なる企業が統合される場合もあるでしょう。そのときに、単に全てを縮小しただけで厳しく規制を行う環境を押し付けてしまえば、従業員のやる気は損なわれ、利便性が落ちることになります。

オフィス・リノベーションにあたっては、社員の結束が高まり、新たな目標を持って仕事に臨めるような変化が求められています。

弊社でも「プライバシーマーク取得準備」と移転のために、会社のドキュメント管理、各社員の作業の点検を行った経験がありますが、オフィスの移転や変更には、この社内的な作業にかなりの時間が費やされます。担当者は通常業務以外の仕事が発生し、関連する業者の数は、内装工事業者、運送業者、電話業者、電気工事業者、OA 機器業者、家具販売店、と想像するだけで大変です。早期に手をつけ始める必要があるのです。

そのため、最近ではオフィス什器メーカーの一括受注が主流になっており、メーカーのPM が作業を一手に引き受ける場合も少なくありません。

しかし、その什器メーカーとは別の商品を入れたい場合、あるいは、自社グループの協力会社を採用する必要があり、分離発注が発生してくると、PM の選定に頭を悩ませることになります。

そこで今回弊社が承った「双日システムズ株式会社」様のオフィスでは、建築家の細江英俊氏にコーディネートを依頼しました。3フロアあったオフィスを2フロアに縮小し、IT 関連会社としての企業イメージを高めるデザイン力も期待されてのことです。また緻密な作業にコスト意識を持って対応できる細江氏のこれまでの経験が買われています。

通常多くのオフィスは、テナントビルに入っており、1階のエレベーターホールの案内板に階数と企業名が書いてあるだけです。共有部分の改修は許されていないため、テナントである企業の顔は、借りている階のエントランスホールにかかってくる。企業のイメージに沿った、適切なファシリティデザインが求められているのです。エレベーターを下りたらお客様をお迎えする受付嬢はいなくても、活気が感じられ、親しみのある空間があるだけでも、会社のイメージアップにつながります。

そして外側だけでなく、その企業を持つ文化、信条がお客様にわかりやすく伝えられてこそ、会社への信用と期待につながります。

この不景気の時代だからこそ、企業の姿勢を改めて見直すよい機会になるのではないのでしょうか。

双日システムズ株式会社本社 リノベーション・プロジェクト

企業の飛躍を願う、オフィス・リニューアルデザイン

企業のオフィスリノベーションは、単にファシリティの更新という意味だけでなく、企業の成長を目指す新たな環境作りという側面が重要である。時間や予算の制約の中で、何を優先させるか、グランドデザインを早い時期からお客様と行っていくことが肝要である。

今回の「双日システムズ株式会社本社リノベーション」プロジェクトでは、現況の空間・ドキュメントの調査、プロジェクト・スキーム、スケジュール、予算など、おのおの専門会社がある中、自分が設計者としてのデザインの仕事を超えて、全体のマネジメントを統括することになった。これまで、住宅の新築やリフォームのほか、オフィスのデザインも手がけており、これからのオフィスは、ワーカークの生活空間としての機能、デザインのほか、来訪者やリクルートなどの目線など、柔軟な発想が求められていると感じている。また、最近では企業のソーシャル・コンプライアンスに対して、ますます厳しい姿勢が求められており、今回のプロジェクトでもIT企業としてのオフィス環境に呼応した提案ができたと思っている。

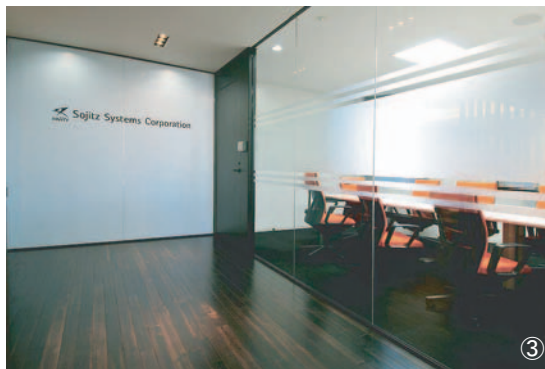
(細江英俊氏談)



①



②



③



④



⑤



⑥

11階建テナントビルの3層のオフィスを2層に再構成。
用途：事務所
設計：細江英俊建築設計事務所
弊社施工担当：宮島
引渡し：2008年12月

<プロジェクトのポイント>

■エレベーターホールに企業の顔をつくる

テナントビルの場合、エレベーターホールが各企業の顔となるものだが、概して各階エレベーターホールは共用部と専有部の境として壁で仕切られている。エレベーターを降りた時点で企業の様子が伺える解放的な設えがあれば来訪者への印象はアップする。そこでエレベーターホールの正面の間仕切壁に入口を新設、来客者の誘導をスムーズにすると共に、ガラスやアルミ壁材でIT企業のイメージを表現した。

■奥行きのある受付エリア

受付はシンプルに呼出端末機を設置し、隣接するウエイティング・スペースと重厚感のある鉄製の縦格子で境界を設けている。アプローチ突き当たりの壁面にコーポレートサインを設置。

■アートのあるウエイティング・スペース

ウエイティング・スペースは明るく親密感のある空間をイメージし、企画段階からモダンアートの設置を提案した。壁面アクセントのアルミ目地には可動飾り棚が設置可能。

■グラデーション・ガラスパーティション

全体に外光を入れつつ、上方は半透明でプライバシーや照明器具の映り込み防止、足元には気配が感じられるよう透明になる、グラデーションのガラスパーティションを採用している。

■部屋ごとにテイストの違い、応接室・会議室

ラウンジに面する、3つの応接・会議室はそれぞれ什器や床の色を変えて、「Bamboo」、「Mandarin」、「Ocean」などの名前をつけて個性を創出している。

■多様な素材のコラボレーション

無垢フローリング、ガラス、アルミ、木質系壁材など多様な素材で構成し、企業としての品格の中にも、リビングのような居心地の良さを感じられる空間とした。

①エレベーターホール正面外観②受付エリアから縦格子越しにウエイティングスペースをのぞむ。縦格子は鉄製黒皮仕上げ。内照LEDと木質系壁材の組み合わせが落ち着いたアプローチを演出している③会議室「Mandarin」は社内の利用頻度も考慮して、共用部に近い受付エリアに配置した④ウエイティング・スペース奥の会議室「Bamboo」⑤会議室「Ocean」は青を基調にまとめられている⑥ワークスペースはオープンなエリアとなっている。もちろん入退室にはセキュリティ・カードが必要。

アートと建築



双日システムズ株式会社様に飾られている作品の作者、山田ちさと氏の作品。

株式会社システムアrika
営業品目：大型アートレンタルプログラムほか
URL:<http://www.arika.net>

設計者細江英俊氏は、アートレンタルの「株式会社システムアrika」と協働し、多くのアーティストの制作環境を支援し、企業の文化的側面の向上と、個人が良質なアートに触れ合う機会を創出する事業に協力しています。

「オフィスや住宅も設計段階からアートを組み込んでデザインするとより上質な空間へ生まれ変わります。お客様がお見えになる会社のエントランスや応接室は『企業の顔』とも言える大切な場所です。採用面接を行う場所を大型アートで素晴らしい空間に変えてみると、企業としての好感度が上がるでしょう。今回の双日システムズ株式会社様にもウエイティング・ルームに2点、設置させていただきました」と細江氏。

一方、会議室「bamboo」には、前身会社ニチメン時代から所有されている絵画が数点飾られていたり、会議室「Ocean」で一部に昔の什器を残されていて、「会社発足当初の気持ちを忘れない」という配慮もされており、歴史ある企業としての一面も拝見させていただきました。

アートとファッションを新たに繋ぐ

デザイナー・アーティスト／小林和史



撮影：アック東京

Kazushi
Kobayashi

今月は、デザイナーの小林和史さんにご登場いただきます。

映像作家甲斐さやか氏とのアート・プロジェクト「outsect」では、ファッションにこだわらず、様々なジャンルにおいて既成概念を超えた独自のスタイルでアートを発表しています。昨年8月にオープンした神宮前のショップでお話を伺いました。

一先月、小林さんが衣裳を担当された、コンテンポラリーダンサー森山開次さんのステージ(『森山開次作品集』第3部 狂いそふろう)を拝見しました。踊りに圧倒されましたが、衣裳もまた斬新でした。

小林：ありがとうございます。これは以前、横浜美術館で行われた公演での森山さんの衣裳ですが(右上写真)傘の骨でできています。身にまとうと、筋肉の延長で伸びたり、ちぢんだりして動き出します。このように、僕は、「もの」、つまり外側の環境と「人間の肉体」との接点を常に求めています。その中には、様々な手法があり、そこにデザイン、アートの可能性があって、面白い。ある意味で、建築にも通じるものがあると思います。外側に皮膜があって、人間との間をどう解釈するかですね。椅子などは、一番人間に近い建築だといわれています。衣裳も人間に一番近い建築、皮膜なのです。

昨年は両国国技館で草月流の80周年記念イベント「創流祭」の全ての衣裳を担当しました。音楽は、YAS-KAZさん、やはり森山開次さんもダンサーとして参加しています。森山さんのほかに、小林嵯峨さんとか室伏鴻さんとか舞踏の方々との仕事も多いのですが、彼らは基本的に裸。究極の身体表現ですから、そこでは「衣裳」というのはよほど意味がなくてはならない。身体表現は、日本人の自然哲学に近いものです。単なる手法ではなく、日本人が受け継いできた精神性、自然とともにある、という意識なのです。例えば、この店の部屋は天井から根っこが生えているでしょう。

一根っこのオブジェが天井からぶら下がっていますね。

小林：訪れる人に地面の中からモノを見る、つまり視点を変えてほしいという願いをこめています。地面から地上をみたら、考え方が変わる、いろんなことが見えてくると思うのです。我々は上の世界の枝葉が伸び、花

が咲くところしか見ていない。でもほとんどそれと同等の広さの地下があって植物は生えている。そういう意識を向けることが、僕の中ではとても大事だと思われるのです。「環境と人間」、この言葉自体も大切に付き合っていかななくてはならない。内部とか足元に意識を向けるということが、一般の人にもリアルな時代になってきたのではないのでしょうか。

一お店に並べてあるように、一般のお客様の服もお作りになっているようですね。素敵なデザインが気になります。

小林：エンターテイメントの服を手がけていると、ファンの方の「ステージのあの服が着たい」という声が増えてきました。最近プロのダンサーではない、一般の方でも自分自身を表現したいという意識が高まっているように感じますね。パーティや大事なイベントでその欲求を満たすとき、身体性から自己発見していく、これまで気が付かなかった自分に気が付きます。ちなみに、うちの服は全部立体裁断、自分の身体に、よりフィットして、気持ちがいいことに気が付きます。着心地、フォルムにさまざまな工夫があります。そして一つ一つの作品にテーマがある。例えば、このカーフのジャケットは着ているうちに暖かくなると皮がフィットしてきます。ポケットにはエイの皮のざらざらした部分を当てて、陸の生物と海の生物の共生をテーマにしています。僕が着ているのは、マエストロの服。職人作業の中で、どうしても袖口は汚れる。袖口は山羊の皮ですが、洗濯機で洗濯ができるように薄く加工しています。それから仕事をしていると、だんだん汚れて全体的に色が変わってくる。そうしたら好きな色に染めることができます。服は長く着続けてもらいたい、受け継いでいってほしいのです。テーマのある服に愛情を持って、アプローチしていくことでこそ、服の意味があると思います。

一おばあさんの着物などをリフォームして、オリジナルのドレスを作ることも流行っています。

小林：日本は昔からそういうことをやってきたのです。一人ひとりが居心地のいい状況の中で、暮らしていく。僕はデザインで、そのお手伝いをしていくことを幸せだと感じています。エンターテイメントの方では身体表現をしていく、それを普通の方の表現につなげる。双方を行きつ戻りつしていくという動きで、僕自身も癒されます。

一本日はどうもありがとうございました。

「外側の環境と肉体との接点を常に求めています。 衣服は人間に一番近い建築かもしれない」

小林和史

1960年 東京都生まれ／デザイナー・アーティスト。outsect 主宰。

1982年 文化服装学院卒業、渡仏。

1983年 ISSEY MIYAKE DESIGN STUDIO inc 入社。パリコレクションデザイナーとして勤める。

1988年 独立。ファッションを中心として、さまざまなジャンルで活動を続けている。ピエールカルダン賞、装苑日本テレビ賞など、受賞多数。

代表作に「エミールガレx小林和史展」(サンククリノ美術館)美術・演出

2002年「Butterfly Infection-小林和史展-」(BEAMS B ギャラリー)など。ダンサー・森山開次、パパ・タラフマラ、室伏鴻、小林嵯峨の舞台衣裳からエルメスやSONYなどのブランドとのコラボレーションも手がける。

神宮前の outsect ショップにて。床にたくさんのお古着の切れ端が繋ぎ合わされた敷物が広がっている。捨てられた衣服を一度分解して、構成して縫い直したもの。「捨てられるということはどういうことなのか」という問題を想起させる。

outsect

URL: <http://www.outsect.com>



メンテ魂

その後、
お住まいはいかがですか

所在地：川口市
用途：共同住宅
構造：RC造
規模：地上9階
設計：谷内田章夫/ワーク
ショップ+野口信彦/タカギ
ランニングオフィス
竣工：2003年10月

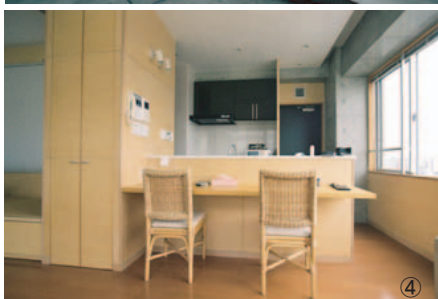


第15回 TREVENT

2003年竣工の「TREVENT」は、タカギプランニングオフィスの企画によるデザイナーズマンションです。眺望の良さ、シンプルなデザイン、プライバシーを確保したプランで、2-7階が各階3戸の賃貸、8,9階がオーナーのご自宅になっています。川口駅から徒歩10分、周辺には以前よりさらにマンションが建ちましたが、開口部を設けた方向は、ビール工場の跡地が公園やアスレチッククラブの複合施設になり、すっかりきれいになりました。担当主任の讚井と建て主のM様をお尋ねしました。

讚井：川口駅からここまでたくさんマンションがありますが、タイル貼りのものと違い、コンクリート打ち放しのこのマンションは目立ちますね。
M様：建築に興味のある人には注目されているようです。先日もうちに来てくれた花屋さんが、「中が見たかった」と話してくれました。
讚井：コンクリートの外壁は、化粧してしまうと、経年変化で汚くなります。竣工当初はよくても、何年もたつと塗り物と地の色の差が出てきて、ムラになるんですね。塗料を塗らないほうがそれなりの味わいがあります。
M様：雨の黒い筋が外の梁についてきて目立つのが気になっています。
讚井：外壁を洗うとなると、足場が必要になりますが、9階ですので単独で行うには費用もつたいないです。コーキングの補修時期と合わ

せた方がいいですね。
M様：コーキングの保証期間は何年ですか。
讚井：10年ですが、だいたい皆さん12～13年でなさっていますね。自分が訪問時に様子を確認しながら、時期をお勧めしています。それから本日点検しましたところ、ゴミ置き場の鉄製扉を再塗装した方がいいですね。建物の材のうち、鉄は大体5年を目処に補修をしています。さびがひどくなって下地が腐ってしまう前にやっておきたいですね。屋上も見ましたが、特に問題はないようです。
M様：近所のマンションでは、屋上のエアコンの室外機にカラスが食べ物を隠して困っているようです。



讚井：都心でもビルの屋上を点検することはよくありますが、配管を包んでいる断熱材がびりびりに破れているのをよく見ますね。色が目立つし鳥の巣作りに最適のようです。

M様：現在9階はあまり利用していないので、下の娘世帯の子供が大きくなってきたこともあり、今後はこちらも娘たちのスペースにあてたいですね。今後の大きな補修計画の予定と見積を出してくださると助かります。
讚井：わかりました。早速出してみます。

①建物前に広がる、アートパーク並木町公園。公園内のアートギャラリーはワークショップなどを行う市民に開かれた施設。②9階テラスからの眺め。左手が川口駅方面、正面が公園、右手にアスレチッククラブとレストラン③ゴミ置き場の鉄製扉④9階ダイニング部分。室内のシナベニヤの建具や家具は木の色味が少し濃くなったがきれいである⑤今回小さなクラックが見つかった、2,3階部分。補修予定。

TOPICS/INFORMATION



「紋別 流水まつりで結婚式」 2月15日
弊社社員佐々木健太(27才)が、新婦真貴子さんと故郷北海道で開催された「もんべつ流水まつり」で心温まる結婚式を上げました。この「流水結婚式」には、親族・知人のほか、幡野勝彦紋別市副市長や畑中正義観光協会会長も参加、アイスステージ前に集まった多くの市民の祝福を受け、2人は「一生の思い出になった」ということです。
(写真：ケーキに見立てた流水塊にナイフならぬノコギリを入れた「ウェディングアイスカット」)

「2月社員研修会開催」 2月21日
テーマ『山留工事、土留め支保工の技術・施工』



富士スチール株式会社様より、4名の講師をお迎えしました。40ページを超える資料を作成していただき、ベテランも新人もそれぞれのキャリアごとに改めて学ぶことが多く、非常に有意義な2時間でした。

「結婚しました」
・澤井一幸 新婦 直美さん 平成20年10月28日
・池上康太 新婦 知恵子さん 平成21年 2月27日

おめでとうございます。
心よりお祝い申し上げます。

編集後記

・「Front Line」でご紹介した、小林和史さんの作品をテーマにした映像作品とファッションショー、そしてトークが、3月21日(土)6:00-7:30pm アップルストア銀座3Fで行われます。Visual Philosophy Salon Vol.3 "Beyond the Word,under the Skin" 入場無料です。ぜひご覧ください。

(株)ユニホー辰カンパニー通信 Vol.108 発行日 2009年3月10日 編集人:松村典子 発行人:森村和男
東京都渋谷区渋谷3-8-10 TEL:03-3486-1570 FAX:03-3486-1450 E-mail:daihyo@esna.co.jp URL :http://www.esna.co.jp